

平成28年度呉市総合教育会議議事録

日 時 平成29年1月31日（火） 15時30分～

場 所 呉市役所本庁舎 7階 756～758号室

呉 市

平成28年度呉市総合教育会議次第

(日 時) 平成29年1月31日(火) 15時30分～
(場 所) 呉市役所本庁舎 7階東側 756～758号室

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 協議・調整事項
呉市教育大綱の推進に向けた主要事業の進捗状況について
①郷土を愛する心の育成について
②呉市トップアスリート・指導者育成事業について ～日体大合宿派遣～
③その他
- 5 閉 会

出席者構成員

呉	市	長	小	村	和	年
教	育	長	中	村	弘	市
教	育	長	森	尾	敬	介
教	育	委	水	野	良	行
教	育	委	舩	尾		慎
教	育	員	香	川	治	子

出席関係職員

文化スポーツ部長	上	東	広	海
文化スポーツ部副部長	河	下	寿	昭
教育部長	寺	本	有	伸
教育総務課長	清	水	和	彦
学校教育課長	多	幾	山	晃
教育総務課課長補佐	追	原	重	臣
学校教育課指導主事	木	屋	善	貴

出席事務局職員

総務部長	徳	丸		肇
総務部副部長	山	本	雅	之
総務課長	小	森		強
総務課主幹	平	岡	和	浩

会議傍聴者

2名

○徳丸総務部長 それでは、定刻となりましたので、ただいまから、平成28年度呉市総合教育会議を開催させていただきます。私、本日の司会を務めさせていただきます。呉市総務部長の徳丸と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、小村市長から御挨拶を申し上げます。

○小村市長 皆さん、こんにちは。本日は平成28年度呉市総合教育会議にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。中村教育長をはじめ、教育委員の皆さんにおかれましては、日頃から子ども達の教育の充実、発展のために御尽力を賜っておりますこと、心から感謝申し上げます。

さて、この庁舎でございますが、概ね1年を迎えることができました。この庁舎が次の世代、未来に向かっての希望を繋いでいけるような、そんな庁舎として整備したいという思いで建設してきたところです。従来、庁舎というものは、市役所の職員が事務をするところで、そこを市役所と言っていました。現在、求められている市役所の役割や機能はそれだけでなく、防災の拠点であったり、また、私は特に市民交流の拠点にしたい、気楽に誰でも来られる、そこで集まったり、待ち合わせをしたり、打ち合わせをしたり、そういうことができる快適な空間を提供したいという思いが強くありまして、この様な形になりました。

高齢化が進む中でワンストップサービスということの本気でやっということうことで、ほとんど1階で利用が済むということ、これは、あらゆる部署の窓口業務を1階でやっということうことですから、実は職員にはすごく負荷がかかっておりまして、住民票や印鑑証明、年金や介護保険の手続きを全部ここで受けられることを理想としてやっています。これまでできなかった質の高い行政サービス、世界一質が高い行政サービスを皆さんに提供することを目標にやっいきます。そして、サービスの質とは、第1に迅速、第2に親身に、第3に的確ということ職員とともに実現したいという思いを持って市民と接するまちづくりの理念にしたいと思っています。

昨年この総合教育会議を3回開催いたしまして、呉市教育大綱を作成することができましたこと、本当にありがとうございました。この大綱の目標といたしまして「郷土を愛する心豊かでたくましい呉の子ども達の育成」と掲げておりまして、学校教育、社会教育、文化・スポーツの各分野において、その目標に向かって様々な施策を実行しているところでございます。本日は、その施策の主要事業につきまして、関係部より進捗状況を説明しました後、委員の皆様様の忌憚のない意見を伺いたいと思っております。呉の教育がより充実していくため、市長部局といたしても応援していくことは私どもの努めだと思っております、よりよくしたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

○徳丸総務部長 ありがとうございます。それでは、ここからの進行は、市長にお渡しいたします。よろしくお願いいたします。

○小村市長 それでは、私の方で会議を進めさせていただきます。これから協議・調整事項に入るところでございますが、中村教育長は、昨年4月に教育長に就任されまして、本会議には初めての御出席にもなりますので、少し時間をいただいて、教育長からいろいろな思いを含めまして、御挨拶をお願いしたいと思います。

○中村教育長 教育長を4月に拝命いたしました中村でございます。私は呉の教育長という職を受けた時に、私の今までの教育理念といいますか、様々な体験、そして子ども達はどんな姿を描いているのか、自分の教育理念が実現した時にどんな姿になるのかをまず考えました。その結果、自分が子ども達に知育、徳育、体育これらを身に付

けた時に子ども達のイメージ・具体像は、夢を持ち夢を語り志を抱く子どもができるであろうと、このことが一番の呉の中で成し遂げたいこと、夢と志を抱く子どもをつくるのだということをベースにしました。その就任から約9ヶ月過ぎようとしている今、簡単に言いますと確かな手応えを感じつつあります。

私は就任以来校長、教職員に対しまして夢と志と同時にそのことも含めまして、結果を子ども達の姿で見せてほしいと、いくらいいことを言っても子ども達が変わらなかつたら、子ども達が以前のままだつたら何もならない、子ども達がどんな子ども達に、こんな言葉を発するような子どもになった、こんな行動する子どもとなった、その姿を結果で表してもらいたいと、ずっと言い続けました。先ほど確かな手応えと言いましたが、先日11月から12月にかけていろんな中学校区で学校体験がありました。私はこんな子どもが育つたのかと驚いたことが山ほどありました。

まず、その中のひとつ、ある小中一貫教育の学園で理科の授業を見ていた時に、班活動をしていたのですが、理科の授業で何かひとつの結論を出すという活動だったのですが、司会をしていた女の子がいます、ある男の子がこういうことが結論だと思うと言つたら、その女の子がどう言つたかと言いますと、今の誰々君の説明には根拠がなかつたよね、根拠がなかつたことは結論になりえないことだからだめですと、却下しますと言つたのです。私はびっくりしました。まず、その男の子の発言したことは根拠がないと判断できたという女の子の資質ですね。そして、その根拠という言葉を持たないと相手を説得できないのだということがわかつた。これは一朝一夕でできない。こんな姿を見ました。

次に、ある最近見た学校体験で子ども達の委員会活動をどうやったらうまくできるか模造紙に書いてこんな委員会ならこんな活動をしますということを発表したのですが、その発表に対して他の班から色々意見をもらうのですが、その活動を見ていたら、ある班がこの模造紙の発表は説明だけになっていて評価の観点がない、褒めることが入っていないと言つたのです。それもびっくりしました。こんな評価をするとき、批判することも必要なのですが、褒めることが大事なのだということを小学5年生ですが、そんな子ども達がいました。同じようにこれもびっくりしました。模造紙に書いている目的と活動内容が一致していないとある子が言いました。目標があるのに目標に対する活動がないとその違いを明確にしたのです。このような子ども達がいるということに私は驚きもしましたし、今から先の大きな手応えを感じました。

せつかくこの様な機会をいただきましたので、私の方から4月から取り組んできた経緯というものと来年度に向けての方向性につきまして、最後少しお話させていただきたいと思います。私の呉市での教育長として、子ども達の姿は夢を持ち夢を語り志を抱くということですのでけれども4月の冒頭に1回目の校長会を開いた時に小村市長にも参列していただきまして、その時、小村市長から3点校長に対して、この様な子どもに育ててほしいということについての言及がありました。その1つ目は社会に出て役立つ技術を身に付けさせてほしい。2点目は日本人としての誇りを身に付けさせてほしい。3点目に天分を開花させてほしい。この3点をその時に校長に対して呉の子ども達をこの様にしてほしいと言つていただきました。そのことを私自身が受けて、最初の社会に出て役立つ技術を身に付けるということは、私の教育理念の根幹の部分と同じだったので。私は、社会に出て活躍できる資質を育むことが私は義務教育の使命だと思つていました。まさに市長が最初に言われたことは私が目指すべきところと合致していました。このことについて、私は今年の12月末までに各中学校長に自

分たちの中学校区で付けたい資質能力は何なのかと、これを明確にするよう指示しました。それから各学校にどんな資質能力を付けたいかが12月末に出てきました。表現力であるとか、それから判断力、思考力、コミュニケーション能力、郷土愛など様々な付けたい資質能力が出てきました。その付けたい資質能力というものは、じゃあ具体的にどうすれば身に付くのか。身に付いて中学校を卒業する時の姿を具体的なイメージをつくって、具体的な取り組みを今、各学校で検討しているところです。

それから、2点目の日本人としての誇りですが、当時言葉使いとか礼節とか文化という表現でされましたが、小中一貫教育を進めていく中ですべての学校すべての教室を回りましたが、言葉使いとか挨拶というのはかなり高いレベルで呉市の子ども達ができているなという私の実感です。ここはある程度できている。私が次に求めたいものは郷土愛の部分でした。後ほど教育部長の方がその一端の取り組みを紹介しますが、今、社会の中で大きく言われている育てたい人材像の中にグローバル社会の中で活躍される人材というのがあります。私はグローバル社会の中で活躍される人材は選択肢の1つであると思っていますし、呉市の中で、呉市のために働くそういった人材をつくることは、同じように呉市の教育の使命であると思っています。そのグローバル社会の中で働く人材、その人材を育てて、グローバル社会で活躍したとしても、私の持つ夢はグローバル社会で活躍しながら同時に呉市に対しての思いを馳せていくと、カレーを見たら海自カレーを思い出すとか、何か港を見たら呉の港を思い出すとか、様々な呉で育った誇りを是非今から子どもたちに身に付けさせたいと思っています。机上に配布していますが、呉の歴史絵本というよいものが完成いたしました。これを来年度すべての小学校でシラバスに位置づけるよう指示しています。シラバスというのは、それぞれの1年間の中でこんなことを教えますよとかいう具体的な内容で、それの中に歴史絵本を必ず取り入れるようにしている、今そんな指示をしているところです。

それともう1つ来年度に向けて力を入れたいことは、これは今、宮原中学校区を考えていますけれど、日本遺産に呉市の施設が認定されました。この日本遺産に対しての知識と誇りを育てる。呉市にしかできない道徳教材をつくりたいです。この道徳教材を呉市の子ども達はすべてその道徳の時間に日本遺産について学ぶとそういう機会に広げていきたい、来年度はモデル校を指定して、そのモデル校の中に教員を配置して、ひとつの模範的な歴史絵本と同じくらいのレベルの中身を、道徳の中身をつくっていききたいと思っています。

3点目の天分を開花させてほしいですが、私も教育活動を展開する中で子ども達に大切なのは体験活動だと思っています。いろいろな体験を子ども達がすることによって自分にこれは興味が沸くとか、逆に興味が沸かないという選択肢があってもよいと思います。いろんな体験活動をさせる、その活動する中で自分のフィーリングにぴったり合うものが出てくる、その機会をたくさん子ども達に提供して上げたいと思っています。特に本物を体験させて触れ合って、生き生きさせて、感性が磨かれ、生まれ持った才能や天分が開花できると思っています。呉市がやっています文化芸術活動でありますとか、ふるさと夢実現事業とかものづくりの体験事業とか、トップアスリート育成事業でありますとか、様々な子ども達に本物を体験できるものがありますので、それらを活用しながら、提供させて、夢や志に繋げていくようなそんな取り組みをしていききたいと思います。

少し長くなりましたが、呉市の教育大綱の中には、「郷土を愛する心豊かでたくまし

い呉の子どもの育成」とあります。この目標に沿うように私も精一杯努めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○**小村市長** ありがとうございます。それでは、これより協議・調整事項に入りたいと思います。まず、協議事項「呉市教育大綱の推進に向けた主要事業の進捗状況」につきまして、関係部から説明をお願いします。

○**寺本教育部長** 「郷土を愛する心の育成について」を説明

○**上東文化スポーツ部長** 「呉市トップアスリート・指導者育成事業について ～日体大合宿派遣～」を説明

○**小村市長** ありがとうございます。呉市教育大綱の推進に向かって事業が進捗していることがよくわかりました。それでは、皆さんから、呉市教育大綱の推進に向けての思いや御意見を伺いたいと思います。順次お願いしたいと思いますが、最初に香川委員さん、いかがでしょうか。

○**香川委員** お正月に本屋さんに行きまして、105歳の日野原先生の書かれた本「僕は頑固な少年だった」を読みました。先生は明治の終わりに生まれ、大正の時に幼稚園・学校に行っているのですが、幼稚園はお父さんが牧師さんだったので教会関係のところに、小学校は神戸市立の諏訪山小学校へ行かれました。先生は、自分が今105歳で振り返ってみる時に思い出されるのは、やはり幼い日々のことであり、今105歳になっている自分の元になっていると言われていています。小学校5、6年生の時には今の教育と同様に、グループワークをして、それぞれが主体的に取り組みをするという教育を受けられ、10代の時に受けた先生たちの熱い思いを持った教育を受けたことが、今の自分の元になっており、105歳で現役の医師として、また、人生の先輩としてたくさんの本を書かれておられます。

私達も教育の大切さを常々思っておりまして、やはり小学校の時に受けられた教育、日野原先生は中学校を神戸一中に行かれたのですが、1日行ってから、あまりに軍国主義みたいな感じが自分に合わないと思って神戸一中をやめて関西学院の中等部に行かれ、またそこで自由な教育を受けられて、授業も全部英語で受けられました。このように今の教育に通じるような教育を、大正時代に受けたことが自分の勇気とか夢とかそういったことに繋がっているということを読んで、私は改めて教育の大切さを感じました。

教育大綱につきましては、2点お話したいと思います。1点目は、幼児教育の充実です。呉市は幼児教育振興計画を策定しており、ここでも幼児教育は学校に入るまでが大切であるとされておりまして。また、日野原先生の本にも人生で必要なものは幼稚園で学んだとありました。そこで生きていくためのマナーだとかいろいろなことも学んだとあります。保幼小の連携はできているのですが、もう一つ乳幼児のところも、子育て支援とともにあると学校に入るまでのところを自由に自然の中で遊んだのがいいというのがありますので、幼児教育がしっかりできていれば小学校に行くと、そこで花開いていくのかと思いました。

2点目は教育大綱にもあります地域に開かれた特色ある学校づくりのところ、ボランティアでの人との繋がりが子どもにとっていいと思います。地域の中で子どもが育っていくということで、今日、中国新聞のファミリーくれのところに、天応小学校のしめ縄作りと餅の伝統文化が出ていて、学校と地域が連携して地域に開かれた学校にしていだければと思います。それが郷土を愛する子どもの育成に繋がっていくと思います。

先日、成人式があったのですが、地域の成人式はやはり顔が見える成人式で、各地域ともいい成人式だと聞いていて、私も宮原地区ですが、よい成人式でした。やはり宮原地区は、大学生もたくさん帰ってきて、住民票がない子ども達もたくさん来ていて、参加人数がとても多く、地域に開かれた学校はとてもいいなと思いました。

ふるさと夢実現事業のふれあい夢議会で採用されたのが宮原中学校で高齢者をサポートすることで、この2月から子ども達が、神原のゴミ出しを「一人じゃないよ！」事業として行います。まだ一地域ではあるのですが、これが広がっていけばいいなと思います。

○小村市長 ありがとうございます。日野原先生ですが、戦前の大正時代は権威のあった神戸一中から私立の学校へ転校したということですよ、それを認める親もすごいですよね。感動いたしました。こういう伸ばし方をしていかなければと思いました。それでは、船尾委員さん、お願いいたします。

○船尾委員 まずは呉市教育大綱の策定につきましては、市長をはじめ関係部署の英知と経験を集めて、呉市ならではのたいへんいい内容になったと感じています。今後は、大綱を基盤とした呉の保幼小中高の教育を展開することを期待しています。参考までに幾つかの市では、教育大綱の案の時点で、告知してパブリックコメントを求めたり、市民の意見を広く取り入れたりして、策定に至ったことを聞いています。また、次回以降の策定には広く市民の意見を聞いてみるというのも、ひとつのやり方じゃないかと思います。それから、教育大綱は今できあがったばかりなので、こうありたいという理想の段階であると思います。当然掲げただけでは、そのとおりにならないと思います。何人の呉市民や教育に携わる方々が今回策定された教育大綱を知っているのかと思います。今後、呉の子ども達を呉の教員や地域の保護者の方々が同じ志を持って、この教育大綱を理解して一丸となって、育っていくという必要性は更に加速することになります。その大本となる教育大綱の中身を具体的に施策に落とし、それを実現していくことを進めていくためには、現場で一生懸命やられている職員の皆さんを助けてくれる多くの地域の方々や周りの子ども達を見守る人達の協力が当然不可欠だと思いますので、その方々に、呉市はこういう教育がしたいのだ、是非協力してほしいとこちらから示して、賛同を得ていく作業も今後必要になってくると思います。これだけ時間をかけて策定した5箇年計画の教育大綱が決して絵に描いた餅にならないよう、掲示しただけでなく、こちらから率先して広報して見てもらうように、是非呉市において教育大綱に関する広報活動をしっかりとしていただきたいという願いを持っています。

また、この総合教育会議のあり方について、時間がない中で大変なスケジュールだと思いますが、もう少し市長と教育長、教育委員の活発なディスカッション、フリーの議論ができれば、我々も市長の思いをより汲み取ることができて、更に有意義な会議になっていくと思いますので、今後ご検討いただければと思います。

○小村市長 ありがとうございます。フリーな話はすごく大事だと思います。私も時間を取るようにしますので、よろしく申し上げます。それでは、水野委員さんお願いします。

○水野委員 よい教育大綱ができたと思っています。また、先ほど画像を通しまして、郷土を愛する子どもの育成を目指してということで説明を受けました。大変いい形で進んでいると思っています。子ども達が呉の歴史や文化に触れまして、それを体験することが豊かな感性と郷土を愛する心を育てることに繋がっていくと思います。小学

生が呉市の美術館，大和ミュージアム，蘭島閣美術館などの見学，大変よいことだと思っています。これらのことを通しまして，子ども達が美術作品に関心が高まりました，呉市にたくさんのお宝があるということを理解できて，呉の良さも理解できると思います。

また，中学生では，ものづくり体験授業をスタートさせ，呉ならではのものづくり企業や技術専門家出前事業が実施されています。呉市発の高度な事業に触れることによって，呉市に対する誇りや愛着が深まると思います。また，ふるさと夢実現事業のふれあい夢議会を推進することで関心も深まっていくと思います。小学校では見る，知る。中学校では体験する，自ら行動するというところで，ふるさとの呉を愛し，誇りを持つ生徒になると思います。大変よいことなので，これからもいろいろな角度から調査研究していただき，子ども達が関心を持って心が高揚するよう企画をいろいろ考えていただきたいと思います。

今日，机に呉市の歴史絵本がありますが，これ以外にも呉の魅力・お宝90選という本が3冊あります。読んでみますと呉の非常に細かいところも網羅されまして，それぞれの校区にあるものくらいは子ども達に理解してもらおうと，地元の良さがまた分かると思います。こういうものをしっかりと活用すればと思います。

また，トップアスリート・指導者育成事業なのですが，日体大の集団行動を見せてもらいまして，本当に本物を見たということで大変感動しました。また，このことは子ども達も同じ気持ちだと思います。このことがスポーツ振興に関する協定に繋がっていると思います。昨年8月の合宿には小中学校の代表や顧問教諭等が日体大に派遣されましたが素晴らしいことだと思います。本物のトップアスリートや研修施設の見学，子ども達も大変感激したことだと思います。参加した児童は夢を叶えるためには最後まであきらめず，努力すること。具体的な目標を決めて準備することも大切であるということを学んだと言っています。大変よい思い出，一生の思い出になったことでしょう。本物を見る。本物から聞くという素晴らしさ。今年は市立呉高校が第89回選抜高校野球大会に出場することを決めました。素晴らしいことです。野球部の監督さんや野球部員の方々に機会があれば，児童生徒に話をしてもらおうということも一つの方法だと思います。これらのことが感動を感じ，夢を感じ，自分の夢が実現する頑張る子どもの育成に繋がると思いますので，今後ともよろしく願いいたします。

○小村市長 ありがとうございます。確かにお宝90選，それぞれの地区をそれぞれの市民センターに指示をいたしまして，地域にあるこういうものを情報として上げて集めることから始めました。呉に長く住んでいても知らないことがたくさんあると思います。それでは，森尾委員さん，お願いします。

○森尾委員 人づくりを重点戦略として未来を担う人材育成ということで，内容の一部につきまして，意見をさせていただければと思います。一つは道德教育に非常に力を注いでいます。その教育の中で現代社会においておざなりになってきている人の道のあり方を学ばせることによって，人に対する思いやりと郷土に対する愛着心を学ばせるためにも非常に価値あるものと思っています。私達委員は，毎年開催されてきます小中学校の研究会に積極的に参加しており，子ども達の中で，道德教育が根付きつつあると感じ取ることができてきています。先ほど来，教育長さんから説明がありましたように日本遺産を題材にした道德の教材が作成されるようですので，これを，子ども達が勉強することでいい結果が得られると感じています。

もう一つは水野委員さんのお話にもありましたように，私は企業出身ということも

ありまして、ものづくり体験事業に対しまして、非常に注目をしています。呉は御承知のように、昔からものづくりのまちと評価されています。呉には優れた技術力を生かしたたくさんの企業や高度の技術を教育する機関もあります。その伝統と特色を事業の一環として、職場体験という形で参加をしていることは、改めて教材になっているのではないかと思います。こういった経験が郷土を愛する心の育成に役立っていけば、自分の将来の居場所として、呉に夢を抱いていけるのではないかと期待を申し上げます。

○小村市長 ありがとうございます。道德教育というものが叫ばれて長くなりますが、まだ試行錯誤ですかね。特に我々団塊の世代が子育てを相当失敗いたしましたので、そこから大変なことになっています。時間がかかるとは思いますが、よろしく願いいたします。それでは教育長さん、よろしくお願いします。

○中村教育長 市の目指す方向性については、冒頭お話しさせてもらいましたので、違う観点からお話しさせてもらいます。先ほどから出ていますように、市立呉高校の甲子園が決まりました。甲子園というものがこれだけ影響力があるものだとつくづく新聞報道を見て思っています。それと同時に、今日の新聞の中に小村市長のコメントが出ています。これから市民が心一つになって応援ができる希望が持てるそう信じて野球部を育てたとありますが、市長は市長の立場で、教育の立場から見たら、この言葉というのは重いと思います。教育というものは、例えば授業でその授業が終わって、思いやりの授業を道德で行い、思いやりの授業がすぐに身に付くことは決してないですよ。そのような印象的な授業があったなら、5年後10年後20年後に道德の時間にあんなことを習ったよなど道德の効果が出てくる。教育というものは、すぐに結果が出るものではなくて、20年後50年後に出てくることもあると、これを教員が信じてやらないと、目先ばかりの取り組みになってしまうと思っています。市立呉高校は同時に教育委員会として私達が考えないといけないのは、こうした監督さんを招へいすることであり、監督さんが子ども達にいろんなことを教え続けていったと、その環境を作るのが教育委員会の仕事なので、そこをしっかりとサポートしていかないといけないと、いかに教師が教育しやすい環境をつくっていくか、事務局の大きな仕事だと思いつつ、今の市立呉の報道を見ていました。同時に大綱の中を実現するには教育委員会の事務局だけでは無理です。当然地域の方の応援も必要になってきます。保護者の応援も必要になってきます。一番肝心なのが教師です。先ほど香川委員さんが教師のことについて言われました。私は教師になって一番うれしかったのは20年後30年後に同窓会をして先生あの時あんな言葉を言ってくれた、あれが今の自分を作ってくれたというのが一番うれしいです。本当腹立って言ったことでも20年後30年後に自分のことを思ってくれたと、それが教師の喜びであって、その喜び感動体験を今の教師にいっぱい与えたいです。そのためには自分ができること、できることプラスアルファをして、やり遂げないと感動体験というものは子ども達から返ってこないです。それを教師が感動体験を味わう、そしてその感動体験を味わった教師がその教師の目の前にいる子ども達に感動体験を与えると、このサイクルを是非私は呉の中でつくっていきたくて、その土壌はたくさんあるとそんな思いをしています。この教育大綱、必ずここらも含めまして実現していきたくて思いますので、よろしくお願いします。

○小村市長 ありがとうございます。私は、昭和38年の高校1年の春休み、母が国立病院に入院してまして、2週間付き添いで看病しました。ずっと病室にいるわけ

にもいきませんので、大きな待合室に当時小さな白黒のテレビがあって、かなりの時間を選抜高校野球大会を見て過ごしていました。患者さんですから、元気で来ている方はいないはずで、皆さん、他県同士の試合の時は、気分もあまりよくないのか、じっとしていましたが、呉港高校の試合が始まりますと、みんなテレビに集まり、一打一打にワーワーと沸いていました。それを見ながら、なんと郷里の学校が甲子園で試合をしたら、市民の心がひとつになっていく、本当に心をひとつにするのだな、病気の人達をこんなに元気づけるのだなと思いました。当時、私は呉港高校の隣の広高生でしたが、呉港野球部は本当によく練習をしていました。朝は登校時に朝練をしていました、学校が終わって下校の時も練習をしていました。それが昭和38年に甲子園に出た時は、市民の多くが当然のように、そんなに珍しくないという感じでした。それからもう50年ですから、呉の学校からは甲子園に行けないということで、有力な選手の多くが市外の学校に行くようになった。本当に残念だと思っていました。いろいろ相談したり、働きかけをして、市立呉高校に野球部をつくることにつきまして進めていきました。みんなが夢を持って、市民の方も期待する中で、こういう結果が出たことを、うれしく思っています。甲子園に行きたいという夢があれば猛練習に耐えられるのですね。夢とはそういうものだと思います。私は夢の中にその人の使命みたいなものが宿っているのではないかと思っています。どこから言われたわけでもなく、なぜか子どもがこうこうしたいという夢を持つ、不思議ですよ。これを学校で大事な目標にしてやる、指導していただいて、目標だけでなく、意志をもって実現するのだという志まで育ててほしいというのが私の強い思いであります。後のことはその子の天分ですが、先ほどの日野原先生が神戸一中から私立学校に転校したというのは感動的でして、あの先生の天分を伸ばすスタートがここにあったのだという気がします。ですから、国立大学に何人入れたとかいうような目標でなくてやってほしいと思います。親を含めて、学校の現場の先生を含めて、この教育に対する価値観を変えていかないといけないような気がします。日本人の父兄の価値観が簡単には変わりませんが、そんな思いをしています。

それから道徳教育ということで、日本遺産ということを基礎においた教育というのは、私は賛成でして、教育とは国とか自治体から離れた、なんとなく特殊な別の世界、治外法権・聖地みたいなそんな感覚がかつてあったと思います。私は国や郷土を離れた抽象的な教育はあり得ないと思っていて、人はそこで具体的に命を持って存在していますので、そこでの具体的な教育をしていかなければならないと思っています。私達は団塊の世代で、戦争に負けて直ぐの時代だったので、昭和20年以前を全否定したような国全体の雰囲気の中で、学校での教育観も大変揺れていました。そうした状況の中で価値観を育てていったということで、我々の世代は大人になっても、ここをどう克服するかということがひとつの課題でありました。呉市というまちの歴史を堂々と発信して行って、市民がこういうまちであることに誇りを持つ中に子どもの誇りも育つ、そのような気がしています。以前はイデオロギーでもって、それに合わないものは排除されるようなところがありました。そういうものではなく、先人の努力が蓄積されてきた、その事実、歴史の上に立脚したものにして欲しいと思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○徳丸総務部長 本日は、様々な御意見を賜りまして、本当にありがとうございました。

今後も、教育委員会事務局と市長事務局が連携し、本会議等を通じて、呉市の

教育推進に取り組んで参りたいと存じます。

なお、呉市教育大綱は、第4次呉市長期総合計画等の趣旨を踏まえて策定しておりますので、平成29年度予算に伴い、後期基本計画の変更が生じた場合には、改めて本会議を開催する予定としておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、これもちまして、平成28年度呉市総合教育会議を終了させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。